

Theme Symposium | 学校保健体育研究部会 | 【課題A】大学体育の授業をいかに良質なものにするか

A feasibility of the Social Mission in University Physical Education, Sport and Health Sciences: the present from the perspective of historical changes

Chair: Koji Takahashi (Nagasaki University), Kaori Kimura (Tokai Gakuen University)

Tue. Sep 7, 2021 3:15 PM - 5:15 PM Room 5 (Zoom)

本シンポジウムでは、「大学体育の授業をいかに良質なものにするか」という課題を達成するために、3年間のテーマ「大学体育から提案する質の高い学校保健体育の提供、実現」を設定した。1年目は「歴史的変遷からみる大学体育の現在地」について確認する。1つ目は大学体育授業の制度や仕組みの変遷である。木内氏から、高等教育改革に伴う要請を受けて教養教育としての保健体育の授業がどのように実施され、大学体育に関わる知が集積されてきたのかについて検討して頂く。2つ目は大学体育授業の実践内容及び大学体育の教員養成の変遷である。金谷氏から、大学体育の独自性や可能性について検討し、大学教育における体育の教育的価値や大学体育に対する内外の評価を洗い出して頂く。3つ目は大学体育授業の運営及びそれを通じた教員の組織作りの変遷である。高村氏から、大学体育の運営や教育・研究を通じた養成の内容を、共通の知見として提出するために必要な事柄を示して頂く。以上の検討から、これまでの大学教育の制度や大学体育の実践によって積み重ねられてきた知を歴史的変遷から読み直し、現代社会に求められる大学体育のあり方について探究する。

3:15 PM - 3:55 PM

[学校保健体育-SA-1] Transition of university physical education and its practical knowledge accumulation due to the higher education reform in Japan

*Atsushi Kiuchi¹ (1. University of Tsukuba)

<演者略歴>

筑波大学体育系教授。大阪工業大学准教授を経て2014年より現職。専門は大学体育論。筑波大学と鹿屋体育大学による3年制博士課程「大学体育スポーツ高度化共同専攻」に従事。（公社）全国大学体育連合常務理事／研究部長。「大学体育スポーツ学研究（旧大学体育学）」「大学教育学会誌」「スポーツパフォーマンス研究」編集委員。

大学体育は、わが国の高等教育改革の荒波の中でどのように変遷してきたのか。1991年の大学設置基準大綱化以降、多くの大学で体育の必修から選択への移行が進み、実技と講義からなる演習授業が増え、シラバス公開やFD授業アンケートの実施は常態化した。このように、大学体育が苦境に立たされたり、教員の負担が増えたことは事実だが、その一方で勝ち得た成果もある。その1つに、大学体育の実践に関する学術的知見の集積を挙げることができる。大学体育は何を学ぶ科目なのか、どのような体育授業がどのような点で高い学修効果を発揮するのか、などに関する「大学体育の授業研究」の蓄積である。これは、1990年代後半から米国高等教育界で広まった Scholarship of Teaching and Learning (SoTL) の概念と一致する。SoTLとは、専門分野の研究と同様に、教育活動を論文として公表し他者からの批判的評価にさらすことで、教授・学習過程のレベルを向上させようという学術的探究をさす。高等教育に体育が堅固に位置づくためには、大学体育における SoTLの推進は必須であることを、最後に主張したい。